

入学者のことば

新潟大学歯学部に入学者として

歯学部1年生 本間 陽子



私は4年前に歯科技工士学校で技工士としての知識と技術を学び、国家試験を受け、歯科技工士の資格を取るに至りました。歯科技工士学校でも臨床実習があり、自分の受け持ちの患者さんの来院の際に立ち会いました。自分の精一杯つくった技工物が歯科医師の手によって患者さんの口腔内にsetされ、それに満足してくれた患者さんの笑顔を見るのは感慨深いものがありました。その技工物はその先数年、もしくは数十年と患者さんの口腔内で機能し続けます。そういった意味では一種の人工臓器です。“食べる”ということは人間が生きていく上で欠かせないことであり、この上ない楽しみであると思います。在学中に「寝たきりの老人が義歯を入れた途端に外に遊びに出かけるようになった」という話を聞いたことがあります。人間にとって“食べる”ということは口腔内だけの問題ではなく全身の健康につながり、さらには精神的な健康にまでつながるそうです。歯科医師とはなんと責任が重く、またやり甲斐のある職業だろうと思いました。私は次第にもっと直接的に歯科医療の現場に入りたいと思うようになりました。そして大学受験を決意しました。

入学して早くも4ヶ月が経ちました。早期臨床実習の病院見学実習、患者さん付き添い実習、患者体験実習では非常によい経験ができたと思います。医療人である限り勉強を続けていく義務があるという厳しい姿勢と、患者さんとコミュニケーションをとることの大切さを知りました。

この新潟大学歯学部でこれから先6年間ないし

は7年間、患者さんに心から信頼され心の苦痛も取り除けるような歯科医師を目指し、一生懸命勉強したいと思います。この先どのようなことが待ち受けているのか楽しみです。

新潟大学歯学部に入学者として

歯学部1年生 山本 真也



私は大学院を中退して歯学部に入りました。それまでは物理で金属の研究をしていて、歯学とは全く違う分野で学んでいました。しかし、就職を考える頃になり、以前から興味を持っていた医療系の学問を学びたい気持ちが強くなってきました。このまま、物理で仕事をしていても、いずれ後悔すると思いました。後悔、苦勞はどの分野に進んでも付いて来ると思います。それならば、自分の興味の持てることに進めば、後悔も後悔と思わないですし、苦勞も苦勞と思わないでしょう。なにより“好きこそものの上手なれ”です。興味を持つからこそ進歩すると考えています。

これから、新しい世界に入っていくことに対して2つのことをモットーにしていきたいと思っています。1つは基礎を怠らず努力すること。これは何事も基礎の上に全てがあるという私の信念です。基礎を怠ると新しいことも新しいと思わないですし、面白いことも面白いと思わなくなります。2つめは人とのつながりを大切にすること。これからは1人でできないことも多々あります。友人、先輩、先生方とコミュニケーションを取ることで学問そして、自分が人間として発展できると思います。これから理想の歯科医師を探し、それに向かって、この決意を持って人生の再スタートをしたいと思います。

新潟大学歯学部に入學して

歯学部1年生 伊藤 恭輔



私は父が歯科医をしていることもあり、何の迷いもなく歯科医を目指し新潟大学歯学部に入學しました。

4月。初めての土地、周りは知らない人ばかりという環境に一人で投げ出され、いきなりの研修合宿に戸惑い、大学生活は不安でいっぱいでした…。(その分、期待もいっぱいでした。)

あれから早くも4ヶ月。聴講申請のシステムがよく分からず一人でテンパっていた自分。「語学1限つれえ」とか「○○つまんねえ」などと、ぼやいていた自分。今はテスト勉強に苦しむ自分。この4ヶ月で、様々な自分を見てきましたが、自分なりに大学生活をすごく楽しんでいると思います。

特に部活(サッカー部)が日常の大半を占める現在ですが、仲間や先輩たちに恵まれた環境で楽しみながら新潟の夏をサッカーで過ごしています。

そして金曜日の早期臨床実習では、家が歯科医院でもできないような貴重な体験ができました。患者役実習、治療見学、付き添い実習があり、その中でも付き添い実習では患者さんと話をしているうちに、附属病院の信頼度、歯がない不自由さ、歯科治療の大切さなどを改めて感じさせられました。

今はまだ教養の段階であり、歯学についての知識も何もない身ですが、一步一步着実に歯科医への道を進んでいるように思います。そして臨床実習で学んだことをいかし、ただ治療するだけでなく、患者さんの身に立った治療のできる歯科医を目指そうと思います。

はっきり言って、これからの6年で何が起こるかすごく楽しみです。

大学院に入學して

摂食・環境制御学講座 稲垣 大悟
摂食・嚥下障害学分野

4月から摂食・嚥下障害学分野の教室に入學してから早や4ヶ月が過ぎました。去年と比較しても大学にいる時間は今のほうが圧倒的に長いのですが、日々充実しているせいかあつという間の4ヶ月でした。大学院に入學するまでは、大学院生の4年間は長い目で考えるもので、特に1年目は外来・雑用などに追われ研究は2年目から本格的に始まるものだと思っていました。ところが、恩師である植田先生の積極的なご指導により、4月の後半には研究テーマも決まり、考えていたよりもずっと早く研究をスタートすることができました。研究は脳波に関するもので、私のような若輩者は当然脳波については全くの無知であり、とまどいながらも日々論文と格闘しています。また、週1日新潟医療福祉大学で勉強もさせてもらっており、多方面で活躍されている先生方と知り合える機会を持つことができ、それが良い刺激になり考え方にも幅をもたせるきっかけとなればと思っています。

私が、学んでいる摂食・嚥下障害学分野の教室はできてからまだ日も浅く、若いドクターが中心ですが、それだけに大学院を卒業する頃には中核をなせるように日々精進したいと思います。

大学院に入学して

摂食環境制御学講座・ 本 田 朋 之
歯周診断・再建学分野

E-mail address: thonda@dent.niigata-u.ac.jp



国家試験が終わり、6年間の学友達との別れを惜しむ暇もなく、4月1日から始まった大学院生活。私は他大学出身です。わからないことだらけの日々からもう3ヶ月が経ちました。1日の半分以上を大学で過ごすこの生活にもようやく慣れてきたように思います。

大学院が実際何をしているのかもわからず、「研究して論文を書く」といった程度の認識しかなかった自分ですが、臨床一筋の人生より、ちょっと寄り道をしてその「研究」というものに触れてみたい。そう思い今ここにいます。大学院生も学生とはいえ、今まで6年間の学生生活とは大きな違いがあります。それはカリキュラムがないということです。始めは戸惑い、1日何もせず終わったこともあります。勉強すること、やるべきことが山ほどある中で、自分なりのカリキュラムを組み立て、限られた時間を上手く使っていかなければならないことをまず学びました。

今、私は、先生方・大学院の先輩方から、研究の基礎を学んでいます。実験手技ひとつとっても、それを記載する教科書は多くありますが、活字では表現しきれないテクニックもあり、直接の指導には敵いません。研究の一から学ぶことのできるこの環境に自分の身をおけることに本当に感謝しています。あとは自分が頑張るだけ…。

先日、研修医の友人から、はじめて抜髄をしたと電話がありました。患者に感謝された友人の喜びを受話器越しに聞きながら、試験管の中の見えない細胞・遺伝子を相手にしている自分の日々がこの道を選んだことに自信がなくなることがあります。研究はすぐに答えは出ません。答えが出ないこともあるといいます。「基礎研究あつての臨床」今の基礎研究が、いつの日か自分が臨床に深くたずさわるようになったときに役立ついたら

…。そんな大きな夢をもって、これからの4年間、自分に誇れる大学院生活となるよう頑張っていきたいと思います。

桜の樹

技工士学校1年生 宮原 麻理子



出迎えは満開の桜だった。

新しい環境への不安など吹き飛ばしてくれるような花を咲かせ、希望さえも抱かせてくれた。しかし、花が散り、今や目に見える変化がない。

そしてそれが今の自分のようで、時々気合を入れてやりたくなる。

なぜ頑張っているのにも関わらず結果が出ないのか。本気で悩むときもある。だけど“頑張ってる”っていうのは他人にそう認められて初めて頑張ってるってことになるんだし、自分で頑張ってるって口に出せる内は頑張りが足りないんだろうと思う。だから自分もつと頑張れるんだと信じてどこまでも行くしかない。頑張ることをやめてしまったらその時点で枯れてしまうだろう。

今は目に見える変化がなくとも、秋冬には姿を変え、春にまた花を咲かせる。勿論それは、樹自身の頑張りだけでなく、周りの環境にも恵まれているからこそできるのだろう。だけど私たちにも教えてくださる先生方、協力し合える友人たちがいる。あとは自分が負けずに頑張るだけ。

二年後、今まで見た事のないくらい立派な桜が咲いていて欲しいものだ。

技工士学校に入学して

技工士学校1年生 佐々木 紀 彰

私が歯科医療の道へ進もうと思ったのは、矯正治療を受けたのがきっかけで、矯正をしていた三年間は本当に辛いことばかりでした。上下の歯を抜いた部分が腐ったり、矯正装置が壊れ、切れた



ワイヤーが舌や頬や唇に突き刺さって出血したり、食べ物が挟まったり、ワイヤーで締め付けられ痛くて数日間飲み食いできなかつたりと、いろんなことがありました。

しかし、そうした理由で歯科医院に通うにつれて歯に興味を持ち始め、やがて歯科技工士を志すようになりました。

技工士学校に入学してから約四ヶ月。最初の数週間は本当に辛くて、自分はこの分野に向いているのか…自分は今この場にいるべきなのか…地元で就職した方が良かったのではないかと本気で悩んだりもしました。でも今ではこの学校に入学して勉強できることを誇りに思いますし、一生懸命努力している先輩やクラスメイトを見ると、そんなこと考えていません。自分で決めた道なので、卒業まで絶対に諦めず、二年間目標を持って日々努力していこうと思います。

